

# 2021丹波縄文の森塾（5日目）

9月25日、秋晴れの晴天のもと丹波縄文の森塾5日目を開催しました。

午前のプログラムは濱畑先生の指導による里山遊び。このプログラムは、遊びを通じて塾生が互いを知り、居心地のよい環境づくりや友達づくりを進めることを目的としています。この日は先生が説明するルールに従い、ジャンケンや鬼ごっこなどを基にした遊びで芝生広場を元気に走り回りました。

昼食は、栗ご飯とキノコの味噌汁を食事サポーターの皆さんが用意してくれました。森公苑で獲れた栗いっぱいのご飯、シメジ、エノキ、シイタケなどキノコ沢山の味噌汁、そしてサツマイモの大学芋など、この季節ならではの味覚を味わいました。また、食事後の昼休みには、石原サポーターから提供いただいた竹トンボを飛ばし、追いかけて回って遊びました。

午後最初のプログラムは栗拾いです。まず、角谷アドバイザーから栗、ドングリなどについて、そして、スズメバチやマムシなど危険な生き物への注意について説明を受けた後、「丹波ビツ栗の森」に向かいました。今年は栗の数も少なかったのですが、それでもみんな走り回って、たくさんの栗を拾いました。その後、枯れ枝や落ち葉を集め、マッチを使って火をつける焚き火体験をしました。また、焚き火の上に飯ごうを乗せてゆで栗を作りました。

この日最後のプログラムは、自然物を使ったクラフト作りです。この日は、竹や檜などを使ってトンボの飾りを作りました。竹の枝で出来たトンボの胴体部分に、檜を薄く削った板の羽を取り付け、そこに羽模様を付けたテープを貼ります。そして頭の部分にフウセンカズラの実で目玉を付け、最後に絵の具で色を付けて完成です。時間が足りなくて完成できない塾生も多かったのですが、身近にある自然の材料を使い、工夫すると色々な飾りが出来ることを学びました。



里山遊び



昼食(栗ご飯とキノコの味噌汁)



昼休み(竹トンボ飛ばし)



栗拾い



**焚き火体験とゆで栗づくり**



**自然物を使ったクラフト作り(トンボ)**